厚真町軽舞遺跡調査整理事務所の被災状況（速報）

※短時間の調査によるものであり、聴き間違いや勘違いもあるかもしれません。ご了承ください。

■調査者：北海道博物館　水島未記学芸主幹
■対応者：乾哲也学芸員

【施設概要】

厚真町軽舞遺跡調査整理事務所　［写真 01］
〒059-1752 厚真町軽舞 205-2
（参考 URL）　http://throughme.jp/meguru_atsuma_iseki/
　廃校となった軽舞小学校の校舎を利用下施設で、厚幌（あっぽろ）ダムの工事に伴い発掘されている厚幌遺跡群の整理作業の拠点であると同時に、以前は町中心部の青少年センターにあった郷土資料館的な役割が、現在ほぼすべてここに集約されている。入口ホール・体育館・教室等が郷土資料の常設展示室となっている。

【被災状況概要】

　建物自体は問題なく、事務室等の整理や遺物の整理・破損土器の復元等については発掘作業員の雇用維持対策ということもあり（現場が現在通行止め区域にあり発掘調査は再開できずにいるため）人員を投入して進め、だいぶ進んでいる。　［写真 39］
　民俗資料の収蔵陳列室になっている体育館については、天井崩落の危険がある状況。その対策が終わらないと作業員も入れないため、整理作業の本格的な着手はいつになるか未定。（日胆地区の集約情報どおり）
　また、建物の床下を通っている水道管が地震で破損しており、水道復旧時の通水により漏水が発生、水が溜まってカビの発生なども見られている。こちらは排水等の作業を実施中。

【個別の被災状況】

◎入口ホール等（出土遺物の展示スペース）
・土器の展示棚：棚自体は倒れなかったが土器のうち１～２割が落下　［写真 02］
　・15 点が破損
　・重しを入れていたものは落ちなかった
　・破損は復元の際の接着部のみで、復元は難しくない・棚の上に貼った剥ぎ取りが落下　→　破損なし
（下からドンと突き上げるような揺れで、フックで吊していたのが外れて落下、フックは要注意）
・出土品のガラス玉（続縄文期）が振動で跳ねて散乱し、混ざり合ってしまった　［写真 34-38］
　→以前 X 線による成分分析を行った高橋美鈴氏に、非破壊的検査による個体識別を依頼済
・同様に細石刃（保管場所不明）が跳ねて散乱し、混ざり合ってしまった
　→道教委のアカイ氏・北大のナカザワ氏に個体識別を依頼予定

◎特別収蔵庫（重要な遺物である金属製品等を保管している、温湿度管理している小部屋）
・キャビネットが多少動いたが転倒・落下はなし　［写真 40-41］
・資料の破損等なし

・キャビネットの扉はマグネット式のため振動で開くこともなかった

◎体育館（メインの展示スペース、民族資料・民俗資料・剥製などの収蔵陳列室的な空間）
・現在、天井板の破損による落下等の危険があり、原則立入禁止　［写真 04-05］
・そのため作業員も入れることができず、整理作業はほぼ手つかず
・アイヌ民族資料については、ショウケースの台座からの落下転倒により少なくともシントコ 1 点の破損を確認　［写真 07-11］
・民俗資料（生活資料・産業資料等含む）については、棚からの落下、什器の転倒、他の資料等の落下、天井編の落下などによりガラス製品を中心に多数が破損　［写真 13-32］
・丸木舟は天井板の落下等による破損なし、これだけは最初に救出した　［写真 33］
・天井板の落下対策工事（セーフティネットを張り、危険な）を手配中
・その終了を待って破損状況の全体像の確認および整理作業を順次進めていく

◎全体
・キャスター付の什器は、動いたことは動いたが落下等の被害はなかった
（推測：キャスターが免震台的な機能を果たした）

◎鹿沼（しかぬま）収蔵庫（町内の鹿沼地区にある出土遺物の収蔵庫、今回は実見せず）
・やはり小学校の廃校舎（木造モルタル校舎）を利用した収蔵庫
・115 万点の出土遺物（コンテナ 2,000～3,000 箱分）を収蔵
・建物にクラックが入り、天井も落ち気味であり、体育館は床が抜けた
・内部に入るのも困難な状況
・建物を解体しながら救い出せる物を出していくしかない、という感じ
・厚幌遺跡群については、報告書に掲載済の資料など比較的重要度の高いものは遺跡調査整理事務所の方で保管していたのはさいわい
・苫東開発時代など、より古くに発掘された遺跡に関しては報告書掲載資料も鹿沼にあり、それだけでも救い出したいと考えている

【その他】

町中心部の青少年センター（厚真町京町 165-1）にある昆虫標本（地元の自然史標本というより、「世界の昆虫」がメインの購入標本コレクション）について、ドイツ箱をランダムに引き出して確認したところ、若干、標本が動いていた（破損ではないらしい）例が見受けられたとのこと。ただし臨時職員が確認したものであり、具体的にどの標本についてか、どういう状況かは乾氏にもわからない。今回訪問時は確認できず。　［写真 42-43］

【支援要請の見通し】

上記のとおり考古資料については目途がつき、専門家の支援が必要な内容についても依頼する方向で進んでいる。
民俗資料等、その他の分野については、天井の落下対策が終わってから整理を進める。その中で専門的な知識が必要な事項の切り分けが進めば、個別に救援の要請をすることになると思う、とのこと。

写真01

写真02

写真03

写真04

写真05

写真06

写真07

写真08

写真09

写真10

写真11

写真12

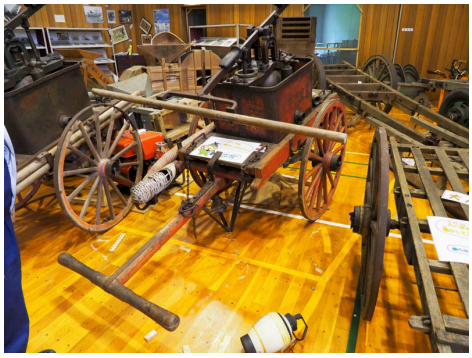

写真13

写真14

写真15

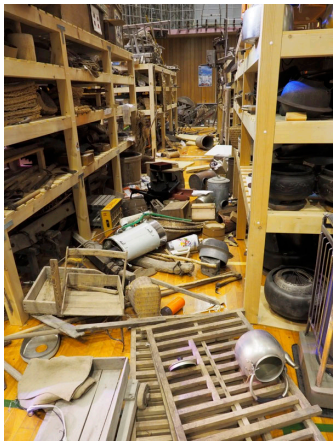

写真16

写真17

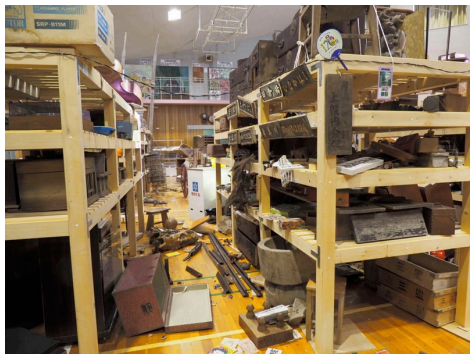

写真18

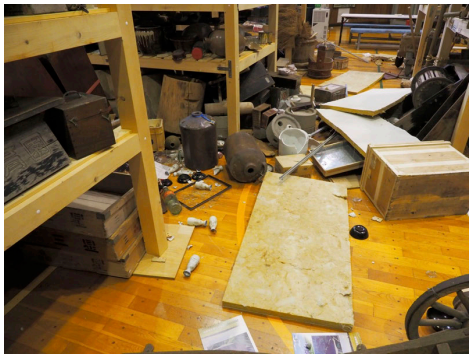

写真19

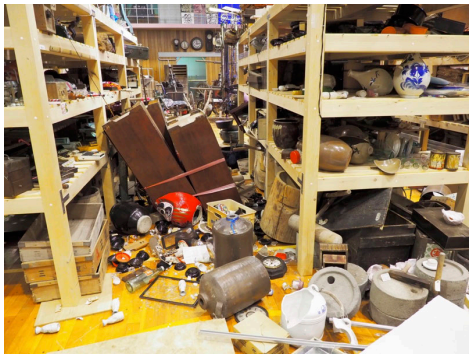

写真20

写真21

写真22

写真23

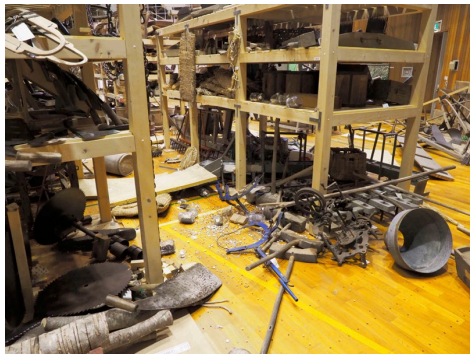

写真24

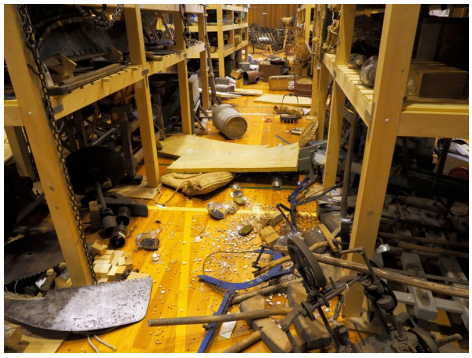

写真25

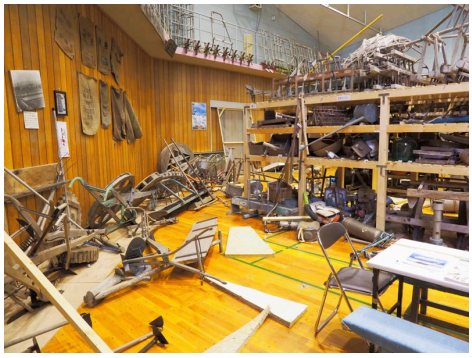

写真26

写真27

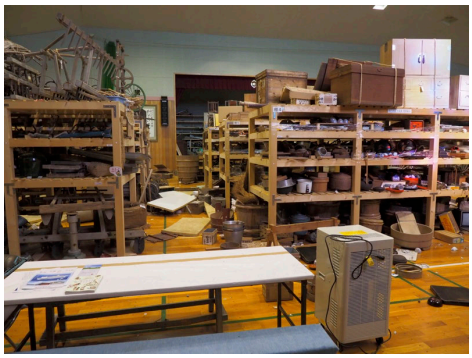

写真28

写真29

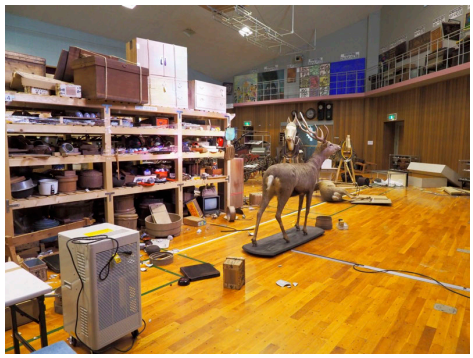

写真30

写真31

写真32

写真33

写真34

写真35

写真36

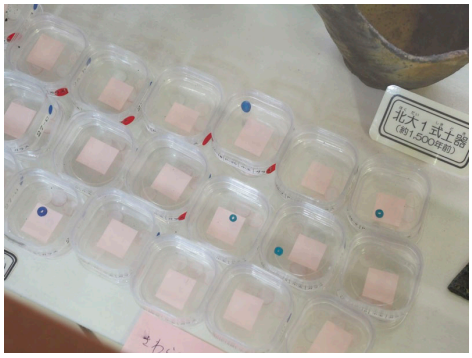

写真37

写真38

写真39

写真40

写真41

写真42

写真43